

よさの地域デザイン会議

会議、おおづめ

年齢、性別、居住地区、肩書などが異なる多様な住民に参加いただき、持続可能なまちづくりにおける公共サービスのあり方について、住民の方々との対話により多彩なアイデアや提案を収集する「よさの地域デザイン会議」。今月号では、「第3回地域別会議」の様子をお伝えします。いよいよ意見の整理に向けてラストスパートです。

これまでの会議で「利用圏域」「集約と複合」をテーマに意見を出し合ってきました。公共施設のあり方を考えるうえで、町内を移動するための公共交通の利便性の向上が不可欠との意見が多数あったことから、企画財政課から「人口減少時代の新しい地域公共交通の検討に係る実証実験について」と題して、乗合タクシー実証実験に関する情報を提供しました。その内容は、通常の路線バスではなく、利用者がいる場合にのみタクシーを走らせる、すなわち『需要』に応じて経路や運行時間を変えて車両を運行する「乗合タクシー」を野田川地域で実証実験するというものです。これにより幹線を丹海バス、地域内を乗合タクシーが担うことで、利便性の高い移動サービスの実現を目指す足がかりにしたいと考えています。

その後、過去2回にわたり意見交換や整理した内容と、加悦地域・岩滝地域・野田川地域のすべてのメンバーが一堂に会した全体会（令和3年11月21日開催）において、「まちに1つあったら良い公共サービス（施設）のあり方」について出た意見を参考に、再度、グループごとに「利用圏域」、「施設の集約、機能の複合化」について意見交換をしました。そして、それぞれのサービスを誰が行うとよいかについて、「A/行政で運営（直営）」、「B/民間や住民団体と協力（協働）」、「C/民間や町民団体に任せる（民間直営）」、「D/その他」に仕分けすることについて意見を出し合いました。さらに、これまでの会議と同様に、他のグループでどのような意見が出されているかを確認し、新たな気付きから話し合いを進め、それぞれのグループで意見整理まで行いました。各地域・グループで整理した内容は以下のとおりです。

- 音楽ホールや文化・芸術施設は、近隣市町に1つだけというような思い切った統合も必要（大きく統合できれば利益も出やすく、民間による運営も視野に入ってくると思う）。
- 庁舎の一本化や図書館の統合を進めるには、各地区にある公民館を行政窓口や図書館の窓口を利用。
- 民間による運営を実現できればメリットは大きいですが、現存する施設で収益を得ることは困難。
- 少しでも個人情報を扱う施設は、しっかりと行政で運営してほしい。



- 庁舎は1つにして、スーパーやコンビニなどが集いやすい場所にも行政窓口を設置。
- 子育て関連や幼児が遊べる小さな公園は近くにあった方がよい。
- 民間やNPOの協働により地区公民館を運営し、防災拠点や小規模な文化・芸術の場としても活用。
- 高齢者関連施設など送迎を伴うサービスは旧町単位でよい。
- 図書館を1つにする。オンライン予約も可能とし、公民館やスーパーなど複数箇所に受け取りの場を設置。
- 庁舎やスーパー、公民館など足を運びやすい場所で、買い物・ATMなど日常に利用するサービスを複合化。
- ナイターは2カ所に集約し、操法訓練などは日程を調整し順番に使用。

- 旧町単位で子どもの居場所を中心にサービスを複合化する（子育て支援センター、こども園、小学校、グラウンド、体育館、高齢者の集う場）。
- 地域の身近な拠点として地区公民館の充実（季節を限定した学童保育やキッズステーション、おじいちゃんおばんちゃんがキッチンでお弁当作り）。
- 図書館は集約して、移動図書館やタクシー活用で貸出サービスを充実。
- 庁舎は1つにして出張サービスによる窓口業務の充実とオンラインの活用。
- 公園を民間運営にしてグランピングなどに活用。
- 与謝野駅を拠点としたサービスの集約化。
- 文化・芸術の発表の場として小規模のものは公民館、大規模のものは全町域に1つ大規模集会場を利用。

加悦地域

令和3年12月8日開催

各グループの主な意見



- 地域公民館を拠点に保健・医療、高齢者、子育てなどの各種サービスを受けられるよう集約。
- 民間運営は現実的には不可能と考えられるため、職員派遣などの行政支援によりサービス低下を抑制しつつ、旧町単位や町全域にある同機能施設を統廃合。
- 図書館、スポーツ施設、大きな集会所は、利便性向上を前提とし全町域で1つの施設に集約。
- いきなり民間直営施設とするのは困難であるため、将来的な展望として民間直営に切り替えていく。指定管理施設として施設を維持管理をし、一定期間内に民間直営に変更。

- 地区公民館を従来の機能に加え、人が集まることができるといえる場として機能を拡充、活発に。
- 教育施設は下校時以降の時間帯で学童サービスを提供。
- 行政窓口は町域に1つにして、オンライン申請で対応できる体制を整備。
- 文化的施設で施設そのものが文化的なものは現状維持。
- グラウンド、図書館、大規模集会所等は民間の力を取り入れながら経営的視点で運営できるよう集約。

- 施設の集約や統合には、公共交通の整備と手続きのオンライン化が必須。
- 庁舎は1つに集約し、住民票、所得・納税証明発行等の窓口業務を公民館やコンビニでできるようにする。
- 公民館機能を充実し、行政窓口機能、防災拠点、高齢者の集いの場などにする。
- 公共施設の利用はオンライン予約を可能とする。
- 小中学校の統廃合を進め、将来的には小学校は旧町に1校、中学校は町に1校とし、学童などを組み込む。
- 産業や観光施設は民間に任せる。

野田川地域

令和3年12月6日開催

各グループの主な意見



- 庁舎は町の真ん中に1つ。地区公民館やコンビニで簡易な交付手続きができるように。
- こども園や小学校は旧町単位に1つ。ただし、小学校にスクールバスは必須。バス運営は民間とし、路線バスに乗り換えるなど日中も無駄にならないように活用。
- 休校（廃校）となった学校にカフェや図書室、子育て支援センターなどを兼ね備え、子どもから高齢者の居場所を確保しながら、民間の力で自由に使ってもらおう。
- 公園やカフェの併設など、民間や地元の方力で与謝野駅を居場所の1つに。
- グラウンドや体育館は旧町単位で。休校（廃校）となった学校のグラウンドは活用できても、体育館は小さいので代替にならない。